平成２７年度　学校教育自己診断アンケート分析

エンパワメントスクールへの改編が大きな原動力となり、全教職員が一致団結し、信頼される学校づくりに邁進した。

しかし、学校側の取り組みやその意識と、生徒・保護者の意識に若干のズレがあることは否めない。

今後、魅力ある教育活動を実施すると共に、教育情報の発信をより活性化させるなど、開かれた学校づくりを更に推進し、その改善に向かいたい。

1. 生徒に防災意識を育むための計画的な防災訓練等や、いじめを未然に防ぐための休み時間の巡回指導、早期対応のための毎週の情報交換会（学年会議）いじめ対策委員会の定期的な開催、相談体制の整備など学校としては万全の態勢で臨んでいる。

しかし、生徒の肯定的回答が全体的に減少している。特に大きく減少している項目は「災害時にどう行動するか知らされている」「いじめに関する対応をきちんとしてくれている」である。

また、保護者においても「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」「先生は子どもの間違った行動を厳しく指導してくれる」「生活指導方針に共感できる」等の項目について肯定的回答が減少している。

今後は、校内体制を更に充実させ安全で安心な学校の基盤を固めるとともに、わかる授業づくりに重点を置き、生徒の修学意欲を喚起したい。又、生徒指導に関してはその方針の明確化を図り、保護者の信頼を確保したい。

1. 教員のICT機器を活用しての授業改善についての項目は肯定的回答が大幅に増加している。一方、「わかる授業の実現に向けての授業見学や研究授業に積極的に取り組んでいる」の項目が減少している。

　　今後は、教員間相互の授業見学を計画的に実施し、その改善を図りたい。

更に、「学校運営に教職員の意見が反映されている」の項目は肯定的回答が大幅に増加しているものの「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような人間関係ができている」の項目が減少している。

今後は、学年職員室や各準備室を整備するなどし、コミュニケーションのとりやすい柔らかい職場環境づくりに努めたい。